

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第5号

令和6年9月5日(木)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/swas/index.php?id=1320111>

↑更新中

2学期始業式の講話から

校長 福沢 俊之

今年も、暑い夏休みでした。気象庁では、最高気温が25℃以上の日を「夏日」、30℃以上の日を「真夏日」、35℃以上の日を「猛暑日」と定義していますが、日本気象協会では40℃以上の日を「酷暑日」と名付けています。言葉の変化や使われる頻度が近年の気象状況を象徴しているように思います。

8月上旬に宮崎県沖で大きな地震がありました。そのことを機に、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」の発表がありました。ちょうどこのころ、私は陸前高田市の東日本大震災津波伝承館や「奇跡の一本松」のある高田松原津波復興祈念公園を訪ねていました。雲の白さが引き立つような真っ青な空と穏やかに広がる海、一方で直前に伝承館で見た震災当時の映像や写真、同じ場所とは思えないこれらを結びつけるには、起こった事実を知ること、防災への知識と関心、そして想像力が必要であると感じました。

夏休み後半の8月27日から3日間、2年生は職業体験学習を行いました。各事業所を巡回して、代表や担当の方々に生徒を受け入れていただいたことへの感謝を伝えると、「少しでもお役に立てれば…」という言葉いただきました。職業に就いたことのない中学生に「なぜ働くのか。」を問うことがあります。「生活の糧となるお金を稼ぐ」という答えもありますが、「きみのお金は誰のため」(田内 学 著 東洋経済新報社)を読むと、「お金とは何か」を考えながら職業としての仕事についても考えさせられます。仕事とは、誰かが必要としていることに応えるためにすることであり、だから、様々な仕事があって社会が成り立っている、働くということは誰かの役に立とうとすること、それが社会に貢献すること、このような考え方に共感をしました。2年生のみなさんには、事後指導の折に、それぞれが体験した仕事は、誰のどんな役に立っていたのか、考えてみてほしいと伝えています。

先日、パリパラリンピックが開幕しましたが、ひと月前には、パリオリンピックが連日放送されていました。人生をかけて努力を積み重ねてきたアスリートの言葉、その真意を理解することは難しいかもしれませんが、自分なりに受けとめて、よりよく生きる支えにすることはできそうです。

私が印象に残っているのは、柔道で金メダルを獲得した阿部一二三選手の言葉「もし何かが叶わなかったとしても、その努力してきたことっていうのは絶対に無駄にはなってない」、そして水泳百メートルバタフライで目標としていた決勝に進むことができなかった池江璃花子選手のレース直後の言葉「ここまでの努力は何だったんだろう」「頑張ってきた意味はあったのか」。結果の明暗を象徴している対照的な言葉です。ただ、「努力」を重ねて得られるものは唯一ではないだろうし、得られるまでの時間、その価値に気づくまでの時間にも差があって、私は「無駄ではない」と信じています。池江選手がインタビューの最後に「また4年後、リベンジに戻ってきたいと思う。」と話していたことに安心をしたことを思い出します。

先日、2学期の目標を書いた短冊を丁寧に模造紙に貼っている学級もありました。それぞれの目標に向けて努力をしていく決意を固めていることでしょう。生徒たちの成長があつての学校です。教職員一同、その努力を応援し、見守っていきたいと思っています。

職業体験の様子



夏季休業中の表彰生徒

吹奏楽部

○第64回 東京都中学校吹奏楽コンクール（練馬文化センター）

B組 金賞 「蒼の躍動」 → 4年連続金賞受賞！

第72回はたらく消防の写生会

○ポスターの部

優秀賞 2年2組

入選 2年3組

2年3組

2年3組

○未来画の部

優秀賞 2年1組

入選 2年2組



御徒町台東中学校 2年



御徒町台東中学校 2年

第73回 全国公募台東書道展

入選 1年1組

1年3組

2年1組

2年2組

2年3組

3年2組

1年2組

2年1組

2年1組

2年2組

2年3組

3年3組